

# コロナ感染の第二波直撃 再開直後の再休校措置 そして全国に緊急事態宣言

## 学校再開にもはや全体の感染を減らす

急速な感染拡大が進むなか、道内には感染の第二波が到来。道と札幌市の緊急共同宣言も束の間、政府は緊急事態宣言を全国に拡大。道内の学校は5月6日まで休業に入りました。2月末の道単独での緊急事態宣言時点よりもはるかに深刻な状態であることは間違いなく、感染を抑え込むために必要な行動を徹底することが求められます。

「アベノマスク」「星野源との一方的コラボ」への失望や不満は、政治に対する期待の強さの表れに他なりません。それだけに、状況に応じた適切な判断をスピード感をもって下していかねければなりません。14

日付けの北海道新聞は「2日遅れの共同宣言」と題し、道と札幌市の緊急共同宣言が自民党道連幹部への「忬度」により、当初より2日もずれ込んだと報じています。道民の命に関わる政策を、国会議員への「忬度」からずれ込ませたとすれば、救いがたい事実です。

また、この時の判断では石狩管内のほとんどの高校が休校するなか、恵庭北・千歳・千歳北陽の3高校は除かれました。「札幌市内から通う生徒数」が少ないことが理由です。札幌市以外の特別支援学校も除外されました。千歳市ではクラスター発生での感染者が出たばかりで、その関係から保

護者が濃厚接触者として検査をうけ生徒を出席扱いにした高校がありましたが、通学の不安から欠席する小中学生は100人程出たそうです。最終的に道教委は千歳市・北広島市からの休校要請に、市内の道立学校と、両市から通う生徒が多い恵庭北高校の休校を決定しました。この間、他校が休業となる中で登校を続けた高校生たちは感染への不安にさらされていきました。

恵庭北高校の生徒会執行部は緊急LINEアンケートを行い、生徒会通信「POLE STAR」で生徒たちの思いを発信。

また、不安を訴えるだけでなく、生徒会から昼休みににおける行動の変容を訴える動きも始めました。アンケートには、実施した時差登校に対して「あまりにも三密」で、「身の危険を感じる」と回答した生徒が93%、「現在の状況で学校再開の判断は正しいと思いませんか？」との問いに、「リスクはあるが三密を避けて開校すべき」が16%、「感染の危険はあるので今は『休校にすべき』」が74%と、生徒たちがいかに感染の不安を抱えながらの登下校、学校生活を送っていたかが伝わってきます。この時の道教委の判断は配慮に欠けていたといわざるを得ません。

新学期、学校を再開する際に、文科省通知にある3密の状態を「徹底的に回避する」ことは到底無理だと私たちは思っていたのではないのでしょうか。再度の休校決定に「正直ホッとした」との声はそれを裏付けています。

ます。子どもたちの不安をできるだけ和らげて安全に学校を再開するためには知恵を絞らねばなりません。この間、全国一斉休校により学校が社会で担っているウエイトの大きさが改めて再確認されました。その優先度合いを行政全体で確認したうえで、学校には格段の感染防止対策を急ぐことが必要です。マスクや消毒アルコール、手袋、非接触の体温計など必要な衛生資材の十分な確保、校内で症状が出た場合の隔離の体制確立、寮や寄宿舎の児童生徒の感染防止および、感染が疑われる場合の緊急対応整備などは再開に向けた必須条件です。多くの学校で、分散登校や遠隔授業など再開に向けた議論が開始されていますが、拙速な議論は禁物です。万全の対策を講じた上での学校は再開されるべきです。それぞれ職場で、有意義な議論が展開されるようお互い頑張りましょう。

### 拙速な判断は致命傷。 冷静で慎重な判断を。

# おろそかになっていませんか？ 教職員の感染予防対策

学校における新型コロナウイルス感染対策のほとんどは子どもたちに向けられたもの。教職員の感染予防がおろそかになっていませんか？「職員室こそ3密」など教職員への感染対策が盲点になっている職場もあります。教職員が健康で安全に勤務できることは学校を再開させ軌道に乗せるために欠かせません。それぞれの職場にある労働安全衛生委員会が中心となり教職員の感染予防対策をすすめることが大切なのではないでしょうか。ある高校の衛生委員会では次のように感染予防を呼びかけています。

**感染症予防に向けて**  
(教職員編)  
5月7日から学校再開予定です。私たち教職員もできるだけの感染リスク軽減対策を講じましょう。

- ・業務員さんの協力を得て、定期的(概ね2〜3時間おき)に教職員が多く利用する箇所の消毒作業を行っています。
- ・全定職員室入り口付近にアルコール消毒液と専用雑巾を置いてあります。必要に応じて使用してください。
- ・(使後の雑巾は全日制職員室入口長机下カゴへ)
- ・消毒液に消毒作業にも限界があります。なんと手洗っても大切なのはこまめな手洗いとうがいです。
- ・石けんを使用し、掲示している手洗いガイドを参考にしましょう
- ・特に公共交通機関での出勤後や外出後や多くの触手作業後は必ず
- ・ハンカチは自分で持参しましょう
- ・給湯室でのうがいはご遠慮ください
- ・定期的な換気を心がけましょう。
- ・窓を開けるときには周囲の方に一声かけましょう
- ・会議や打合わせ時には、出来る範囲で座席間の距離を保

つことやマスク着用を心がけましょう。

・僅かでも咳やくしゃみの症状がある場合はマスクを着用しましょう。(マスクの在庫のない方には手作りマスクをお渡しします。)

**職場新聞でコロナ特集**  
連日、恵庭北高校ではコロナ特集の職場新聞が連日発行されています。一部をちょっとだけ紹介します。

4月10日付 NO2  
**正しく恐れるという**  
3月18日、ドイツのメルケル首相は「民主主義国家だから政治的決定は透明性を持ち、詳しく説明されなければならぬ」と前置きして感染防止に人との接触を極力減らす必要性を説き、「一人一人に何ができるのかを説明したい」と語り掛けました。一方、マスクがお似合いの首相は一

毎日検温をし健康観察シートを用いて体温確認をしてください。少しでも体調不良を感じたら休むことや早めに帰ることを心がけましょう。

何よりも大切なのは、自分が媒介者にならないこと・学校が媒介場所にならないことを意識することです。「自分は大丈夫」ではなく、「もしかしたら」を考えたい出来る限りの対策を心がけましょう。

●●●高校衛生委員会

昨日の非常事態宣言の時、「国民の皆様にはどうか正確な情報を信じて適切に行動していただきたい」と言っていました。いったい、どの口が言っているのでしょうか。情報を隠蔽し、あったことも無かったことにし、トカゲの尻尾切りで自殺者が出て自分には責任を取らず知らん顔。そんな人の情報を信じますか。役人に作らせたプロンプターの原稿を読んでいるだけのくせに、長々と自分の頭で語っているフリをして、用意された質問だけを許可して、役人が作った返答をしている首相を信じるほどボクは人がよくありません。

4月14日付 NO4  
**危機意識が高い  
生徒会執行部**  
生徒会執行部の生徒と話していると、コロナウイルスに対して驚くほど危機意識を感じています。まず、電車の中では顔が近いんだそうです。「俺たちの安全は無視か？」そんな感覚なんだと思います。「家族に高齢者がいる」「母が看護師なので、感染しないで帰ってきてね」と何度も言われている。「札幌圏からの生徒は少なくても、もしその一人が感染していたら、危険度は同じ。」「もともとだし、よく考えているなと感心します。校内での生活はまず一密。そこにしよつちゅう二密、三密の状態が発生するのだからたまりません。台湾では2週間の準備期間を設けて、非接触温度計まで用意して開校しました。プロ野球開幕の話まであります。いつの間にか日本は先進国とはいえない国になってしまいました。残念。

それぞれの職場での創意あるとろくみが行われていると思います。声をかけあう、声をあげ続ける。ちょっとずつ前に進みましょう。